

白部

吳復第五四六號

昭和二十二年九月三十日

第二復員局長殿

吳地方復員局長

提出

- 一 引渡物件目録
 - 一 引渡書
 - 一 領收書
 - 一 現狀調書
- 但し舊海防艦二二五號に對する分

各二部

(別紙添)

(終)

0200

通信長
電信部
暗號部

艦長 (司令)
副長
當直將校
關係者

通信參謀
司令部附

司令長官
司令官
參謀長
首席參謀
幕僚

海軍電報起案譯文用紙

9月30日	受信時刻	2010	作成時刻	2207	作成者	記事	番號	定	船	艦發信所	艦送信所
							一三		少	東京	東京
							通信文	所 艦 信 受			
							平文 暗號 ()	2505L30			
							者 信 著	除各			
							者 報 受	復復			
							分 區 理 整	改輸掃黑驚 復一元特二二六			
							者 信 發	二復終			
							整理番號	23			
							電波	4630 K.C.			

第四回第一組引渡船中 鷲崎、黒神
掃特一、一六及輸一九八外地ニ於テ英玉ニ
米引渡ノ事ニ計畫サレシ、アルニ付キ引渡
諸準備ヲ進メ置カレ度

附表第一 (様式第二)

0201

電信部長
電信部
附録部

艦長 (司令)
副長
當直將校
關係者

通信參謀
司令部附

司令長官
司令官
參謀長
首席參謀
幕僚

海軍電報起案譯文用紙

10月 7日 受信時刻	12 42 作成時刻	12 45 印刷時刻	大内 記事	二 日 至 急 知 ラ サ レ 友	二 舟 員 被 服 受 一 都 合 ア リ 内 地 出 港 予 定	十 日 一 七 三 日 吳 著	八 日 一 五 日 日 佐 世 保 哉	一 吳 行 動 予 定 左 通 リ	通信文 平文 暗號 () 無線 有線	番號	定 指	發送所	發送所
										一	ウイ ナリ	中 放	所 發 信 受
										セ 8.30 67			
										二 吳 復 復 總			
										佐 橫 復			
										分 區 理 整		者 信 發	
												輸 一 九	
0202		整理番號		9		電波		7260 K.C.					

野部

附表第一 (様式第一)

通信部長
電信部
附設部

副司令長
管直將校
關係者

通信參謀
司令部附

司令長官
司令官
參謀長
首席參謀
參謀

海軍電報起案譯文用紙

10月6日	受信時刻	20	作成時刻	20	作成時刻	20	備考	記事	電報	電波	6630	R.C.	番號	定	指	艦隊所發	總所發
													一三			東放	
通信文										所發信受			471700				
平文暗號(無線有線)										受信			二復總				
峽水道ハ書間航行トス										受報			各復 横、吳、佐				
六日(一)の日の(右)世保発 八日(二)の日の										分區整理			若信發 一四七				
終										整理番號			21				

可
野

附表第一 (様式第一)

通信長
電信部
暗部

艦長 (司令)
副長
當直將校
關係者

通信參謀
司令部附

司令長官
司令官
參謀長
首席參謀
幕僚

海軍電報起案譯文用紙

10 月 6 日 受信時刻					回航引流準備作業ラセ	輸一九二〇(送)仕勢終了eハ空ニ回航外地(香港トテ是)		通信文	番號	定指	艦發信所	艦送信所
									七			
翻譯成時刻								平文暗號()	所 艦 信 受			
									e 11.45. e 6			
譯成者								(無線 有線)	者	信	着	
									橫 兵 佐 輸 一九 各 復			
記事									者	報	受	
									各 復 舞 改			
									分 區 理 整	者 信 發		
										二 復 司 長		

附表第一 (標式第一)

0204

整理番號

電波

K. C.

暗通電信部
電信部長

艦司令官
副司令官
當直將校
關係者

通信參謀
司令部附

司令官
參謀長
首席參謀
幕僚

紙用文譯案起報電軍海

10月3日 受送信時刻									番號	定指	艦發信	艦送信	
									九				
作成時刻									所艦信受				
									24.42.53				
譯成者									者信着	輸一四七			
									者報受	各復			
記事									分區理整	者信發	二復		
輸一四七の還送は勢了りて是日回航待候也ヨ 行動中是の通多更し午後改神方面ニ於テスリテアヤル人 (控)								通信文		平文暗號()		(無線有線)	
0205								整理番號		電波		K. C.	

附表第一 (様式第一)

吳復第三五號

昭和二十五年三月二日

佐世保地方復員業務處理部庶務課長殿

會報出席者について（通知）

（佐復殘第二七號關連）

鹿江部長（芦田事務官隨行）が三月七日（火）一七〇〇日宇着の豫定
で貴部管内世話係長會報に出席しますから宜敷くお願いします

（終）

0206

證

明

書

倉橋島波多見海岸に沈没中の舊驅逐艦谷風は老朽のため昭和十五年艦籍より除かれ昭和十九年より現位置に於て吳海軍工廠が解撤中なりしものにして本艦の要目及現状左の通り

一 要目

ニ 現狀

進水年 一九一九年

船体の上甲板は全部撤去し船体機關共腐蝕衰弱し船舶として使用に堪えず

全長 八三・九米

幅 八・四

吃水 三・四

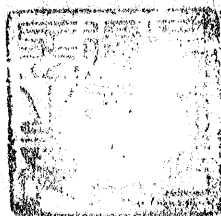
排水量 八一〇噸

右 證 明 了

昭和二十二年十月八日

吳地方復員局長 矢 牧

草



0207

中造第一三六四號

昭和二十三年九月二十九日

地方第二復員局長殿

賠償割當艦艇引渡に關する注意について

右について運輸省海運總局より解撤賠償割當艦艇表の送付があつたか當
 局管下のものは左記の通りであるから了知と共に廻航に用ひた残りの油
 及航海用電波探知機裝備取扱はづしについて貴局に於て取扱はれる趣で
 あるから取扱方針等を連絡願いたい。

記

船名	艦種	賠償國	所在地	解撤會社	總屯數	解撤屯數	解撤期間
海防艦	木國	佐世保	海磨吳ドック	10110	380	380	22.11.1

中國海運局

22.10.1

中長
可取
印
理
印

復
22.11.1

0208

註◎印は電波探知機取扱つしを許可されたものを示す。

◎樫	◎樺	第一五四號	美	第二六號
〃	驅逐艦	〃	〃	〃
〃	米國	〃	英國	〃
〃	〃	佐世保	〃	舞鶴
皇口ドツク	三井玉野	占部田熊	三菱廣島	〃
一五三〇	一五八〇	九〇〇	一〇二〇	九〇〇
五〇〇	五一〇	二九六	二八〇	二九六
〃	開始後五ヶ月	二 三 三 三 一	二 三 三 三 一	〃

0209

借用書

一、船種

曳船

二、公稱番号

第一五四六号

右船種は九月一日附呉復第〇四九ニ号で借用を御承認
にふりましが承認に附帯の條件厳守致します

昭和二十二年九月一日

出光興産株式会社

所長

川

端

雄



呉地方復員局長

矢

牧

章

殿

0210

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

千二廿

0211

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

借用書

一、船種

曳船

二、公稱番号

第一五四六号

右船種は九月一日附呉復第百四九二号で借用を御承認
にふりましが承認に附帯の條件厳守致します

昭和二十二年九月一日

出光興産株式会社

所長 川



雄



呉地方復員局長

矢 牧 章 殿

0212

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

千二〇

0213

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

電信部長
電信部
附設部

副官長
管直將校
關係者
(司令官)

通信參謀
司令部附

司令官
司令官
參謀長
當用參謀
幕僚



海軍電報起案譯文用紙

番號	定指	機密 附符	發送 所價
一四	少大		東京
所 艦 信 受			
2453L8			
案 價 費			
各 復			
案 報 裝			
輸一 掃黑 鷺崎 二 特神 崎 九 六			
分區編號		台價費	
		二復 總	
10	月	8	日
電信時刻			
20			
35			
作 成 時 刻			
21			
02			
作 成 時 刻			
1			
附 註			
總務第一三番電(三十日)周聯 輸一九 鷺崎、黑神、掃特二、一六八 十月二十日以後二日內待機トナレ度 香港回航及補給要領後令 但 鷺崎、黑神、回航ハ英側ニテ再檢、 討中			
終子			
0214	整理番號	15	電波 4630 K.C.

附表第一 (表式第一)

電信部長
電信部
附設部

副司令長
艦長
副司令長
管直將校
關係者

通信參謀
司令部附

司令長官
司令官
參謀長
首席參謀
參謀

海軍電報起案譯文用紙

10 月 8日 受信時刻	20 37 作成時刻	20 51 作成者	記事	送付 廿度	特別保管形、 形船要目現状及 未送付、分至急	通 信 文	平文 暗號 (無線有線)	番號	定指	機務所信	送所信
								—	少	東	東
								所 離 信 受			
								2441E8			
								接 信 務			
								各 吳 管 佐 船 舞 部			
								著 報 受			
								分 區 機 整 著 信 發			
								二 復 總			
0215		電報番號		16		電波		4630 KC.			

附表第一 (機式第一)



吳復第五七七號

昭和二十二年十月十日

吳地方復員局總務部長

廣島縣總務部長殿
廣島財務局國有財産部長殿
中國海運局船舶郵長殿

行動不能艦艇引渡の件通知

吳及江田島に於て保管中の行動不能艦艇三高及大須は今般宇都港の防波堤
として使用する事になりましたので十月十三日〇九〇〇吳管船舶に於て引
渡を行ひますから代表官出席され度い

寫送付先
海運局吳支局長
財務局吳出張所長

0216

通信部長
電信部
暗線部

副官
艦長
艦副官
艦係者

通信參謀
司令部附

司令長官
司令官
參謀長
首席參謀
參謀

海軍電報起案譯文用紙

10月10日	受信時刻	12	作成時刻	13	作成者	石原	記事	終	貴五日番電(九色) 様(月四日)艦八(月七日)佐世保ニ於テ支々米 海上部隊指揮官ニ正式引渡済ノ事ニシテ今更ニ 也保ニ於テ於テ九造船所ニ對スル授受ハ未對 也船所由ニ直接與禮セラシ當復員局トシテ八全 然(九)ニアラズ不明ノ事アラバニ復ニ然會テ 下接(九)	通信文 平文 暗號 () 無線 有線	符號 定 指 艦所信 艦所信	東 放	所 艦 信 受 七、30 10	署 信 署 吳 復	署 報 受	分區 種 整 表信 發 佐 復
										0217	發源 艦 號	電 波	9260	K.C.		

附表第一 (様式第一)

通信部長
電信部
附設部

副長
管直將校
關係者

通信參謀
司令部附

司令長官
參謀長
附屬參謀
幕僚

海軍電報起案譯文用紙

10月 10日 受信時刻	20 05 作成時刻	20 27 作成者	石原 記者	終	輸一九夕四(九日)南凍 吳ニ於ケル入渠作業(許可サレズ)	通信文 平文 暗號 () 無線 有線	番號	定指	船殼所備	總所備
							六	少イ ナリ		東放
						所 船 信 受				
						→4、40 & 10				
						要 價 費				
						輸吳 一九復				
						費 報 費				
						復 横、(左、右)				
						分 區 總 整		若 信 費		
								二 通復		
0218		整理番號		9		電波		4630 K.C.		

寫河野郵員

附表第一 (機式第二)

しりあき

呉復第五八一號

昭和二十三年十月十一日

岡山縣總務部長殿

吳地方復員局總務部長

舊瀕途艦引渡の件通知

舊瀕途艦は今般三井玉野造船所に於て解撤の事に決定したから十月十五日〇九〇〇回社に於て引渡を行ふに付代表官出席されたい。印判携行。

(終)

0219

吳復第五八五號

昭和二十二年十月十三日

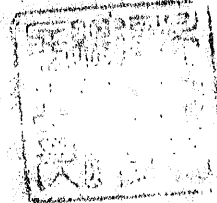
吳地方復員局總務部長

廣島財務局國有財産部長殿
中國海運局船舶部長殿

舊瀧船引渡の件通知

舊瀧船は今般三井玉野造船所に於て解撤の事に決定したから十月十五日
日〇九〇〇同社に於て引渡を行ふに付代表官出席され度い

寫送付先
財務局吳出張所長
海運局吳支店長



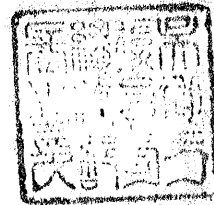
0220

吳復縣五八四號

昭和二十二年十月十三日

吳地方復員局總務部長

山口縣總務部長殿
廣島財務局國有財産部長殿
中國海運局船舶部長殿



舊艦逐艦引渡の件通知

舊艦逐艦は今般笠戸船渠に於て解撤の事に決定したから十月二十日一〇
〇〇同社に於て引渡を行ふに付代表者出席され度い

寫送付先
財務局 徳山出張所
海運局 徳山支局長
笠戸船渠社 長

0221



領 收 證

舊海防鐵六二號を受取ました。

昭和二十二年拾月廿一日

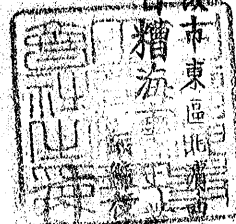
廣島財務局長
高橋 衛 殿

立會人

兵地方復員局長 代 河野 克 次

廣島縣知事 代 南 角 真

中國海運局長 代 山 本 博



大坂市東區北船場丁目五五ノ一
甘糟 添 株式会社

糟 添 五 郎



0222



舊防艦六二號を内務省に引渡します
但し大蔵省を解て甘糟海軍工業株式會社に引渡しの分

昭和二十二年十月十三日

奥地方復興局長

矢 牧

廣島縣知事

補 類 常 務 股

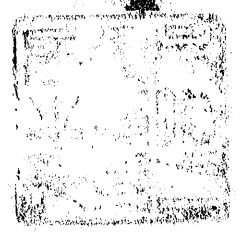
立 會 人

廣島財務局長 代 相

中國海運局長 代 相

甘糟海軍工業株式會社 代 相

伊小敏
山崎博
梅島一



0223



引 渡 書

舊海防艦大二三號を内務省に引渡します

但し大連省を解て甘樫海軍工業株式會社に引渡しの分

昭和二十二年十月十三日

奥地方復興局長

矢 牧 章

廣島縣知事

補 副 常 務 股 長

立 會 人

廣島財務局長 代 刑 塚 政 男

中國海運局長 代 山 崎 博

甘樫海軍工業株式會社社長

代 村 松 兵 衛



0224



引渡書

青森縣三高及大須を引渡します

但し大須省を經て山口縣廳に引渡しの分

昭和二十二年十月十三日

奥地方復興局長 矢野 牧

廣島縣知事

楠瀬常新殿

立會人 廣島財務局長

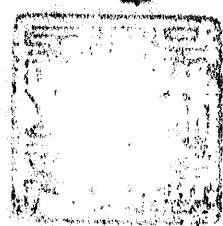
相原敏男

中興海運局長

山崎博

山口縣知事代

楠瀬常新



0225

控

吳復第五八六號

昭和二十二年十月十四日

吳地方復員局長

復員廳第二復員局長殿

提出

一 現狀調書

一 引渡物件目錄

一 引渡書

一 領收證

但し海防艦六二號ト對スル分

(別紙添)

〆

(英漢源紙乙)

海軍

0226

通信部長
電信部
暗號部

(司令)長
副長
當直將校
關係者

通信參謀
司令部附

司令長官
司令官
參謀長
首席參謀
幕僚

海軍電報起案譯文用紙

月 10 日 14 受信時刻 09 46 作成時刻 09 50 作成者 若松 記事	番號 309	定指 309	發所 馬	受所 馬
	所 繼 信 受 140940			
	著 信 著 二修認			
	著 報 受 吳 橫 復 復			
整理番號 0227		電 號 K.C.		附表第一 輪式部 一四七 艦長

通信文
 左、理由ニ依リ、東カニ引渡促進方取計ハシメ度
 一、横須賀製氷港以美短期間、船海ナリシモ、船体、鉄
 弛緩多ク、燃料、漏洩及真水、タンクニ海水混
 入ニ保安衛生上不安アリ
 二、待機期間、延長、乗員ノ最大同心事ナシ
 職用題ヲ查ケ不利トス
 三、相心外、遷延、為漸増スル寒氣ニ對シテ充分ナル
 被服ヲ準備サズ、不便ヲ感ジアリ

可野。新員。

電信部長
電信部
暗號部

司令官
副司令官
當直將校
關係者

通信參謀
司令部附

司令官
參謀長
首席參謀
幕僚

海軍電報起案譯文用紙

月	日	發送時刻	作成時刻	作成者	記事	電報	整理番號	電波	K.C.	番號	定指	發送所	接收所
										所	發	信	受
<p>通信文 平文暗號 () 無線有線</p> <p>如母港以外、港ニ於テ徒ニ待待期間長キコトハ 經濟狀態ノ逼迫及洒保物品ノ缺乏ト共ニ 艦ノ氣分ヲ一層陰鬱ニス之以上、待待正 長、堪エラレズ</p> <p>(終)</p>									者 信 者				
									者 報 受				
									分區理整		者信發		

附表第一 (樣式第一)

0228

寫

廣島送贈標を受領しました

昭和二十二年十月十五日

領 收 書

廣島財務局長

高橋

備 殿

立會人 興地方復興局長

岡山縣知事

中國海運局長

代 河野克次
代 西山太良
山岡彦一

岡山縣立

社 長



五



0229

寫

引

渡

替

舊艦逐艦棒を内務省に引渡します

但し大蔵省を経て三井玉野造船船所に引渡しの方

昭和二十二年十月十五日

奥地方復興局長

矢 牧

章

岡山縣知事

西岡 廣吉

殿

立會人 廣島財務局長

代相 原敬男

中國海運局長

山岡 考一

三井玉野造船所長

田中 繁松

0230

昭和二十二年十月十六日

山口縣知事 田中龍夫

吳地方復員局長 殿

宇部港防波堤工事用として舊驅逐艦三高及 須の受領について

標記の件について領收書に調印しましたから左記の通送付致します
御査收下さい。

記

一 領收書

一 原本

壹 葉

一 全

一 寫

參 葉

計

四 葉

河野部

山口縣



10220

0231



吳復第五九八號

昭和二十二年十月二十一日

第一復員局長殿

吳地方復員局長

提出

- 一 引渡書
- 一 領收書
- 一 現狀調書
- 一 引渡物件目録

各二通

但し舊艦三高及び大須に對する分

(別紙添)

(終)

0232



吳復第五九四號

昭和二十二年十月二十日

玉野三井造船株式會社々長殿

吳地方復員局總務部長

舊艦遂艦樺搭載重油の處理について

貴社に於て解撤中の舊艦遂艦樺に搭載中の重油は中央の指令に依つて當
局で引取の上保管する豫定でしたが重油船の都合がつかないから貴社に
保管を依頼します量額の正確なる數字は同艦より陸揚後當方立會の上計
測決定いたし度陸揚作業終了せば御通知を願ひ度い

(終)

0234



吳復第五九三號

昭和二十二年十月二十日

吳地方復員局總務部長

岡山縣總務部長殿

廣島財務局國有財産部長殿

中國海運局船舶部長殿

舊驅逐艦樺搭載の重油の處理について

玉野三井造船株式會社に於て、解撤中の舊驅逐艦樺に搭載中の重油（約一七〇噸）は中央の指令に依つて當局で引取の上保管すべきですが重油船の都合がつかないから同社に保管を依託致します適當時機に内務省に移管する豫定です

寫送付先 海運局玉野支局長

財務局岡山出張所長

玉野三井造船株式會社社長

（終）

0235

通信者
電信部
略號部

副(司令)長
當直將校
關係者

通信參謀
司令部附

司令長官
司令官
參謀長
首席參謀
僚

補遺策

海軍電報起案譯文用紙

11月 7日 送信時刻 1450 作成時刻 1520 作成者 名木 記事 續々	燃料 潤滑油 帶品 機裝品 廻航ニ必要ナルモノ 外陸揚子吳補給部及造修課ニ還納ス但シ 小重油(タンク底残油ヲ含マス)ハ吳補給部ニ テ保管(処分後令ス)	退解ス 廻航及引渡ニ必要最少限乗員ニ外吳ニテ	廻航引渡(解鉄)決定行動及引渡予定返	輪廻ハ左依リ準備次第吳港日立迄船所ニ	番號	定指	艦發信所	艦送信所							
					17	少イナリ		東放							
					所 艦 信 受				22,20ヒク						
					者 信 着				吳復						
				者 報 受				各復 輸一四七							
				分 區 理 整				者 信 發				二復給			

河野部員

附表第一 (様式第一)

0238

整理番號

12

電波

9260 K.C.

通信者
電信部
暗號部

關係者
當直將校
副長
(司令)長

通信參謀
司令部附

司令長官
司令官
參謀長
首席參謀
幕僚

海軍電報起案譯文用紙

月	日	受信時刻	作 成 時 刻	作 成 者	記 事	四、厨室用物件 吳管船部ニ送納ス 三、被服糧食 吳補給部ニ還納ス但シ廻航及 引渡ニ必要ナル糧食ハ殘ス 二、送附ス(二復ヨリ米國ニ引渡ス) 眼鏡 六分儀 時計 晴雨計 定不 類ハ造船所着後陸揚速ニ復管船部	番 號	定 指	總 發 所 信	總 送 所 信			
							所	繼	信	受			
							者	信	着				
							者	報	受				
						通信文	No. 2						
						平文暗號()	無線 有線						
							分	區	理	整	者	信	發

0237

整理番號

電波

K.C.

附表第一 (様式第一)

通信者
電信部
暗號部

副長 (司令長)
當直將校
關係者

通信參謀
司令部附

司令長官
司令官
參謀長
首席參謀
幕僚

海軍電報起案譯文用紙

11月 8日 送信時刻 18 22 作成時刻 18 15 作成者 易 記事	掃三、輸丸 掃磨船運小 浦貨船運小	巨濟塩釜 東北船運小	蘇峰、坊無保 船組之業小	里神、舞鶴 飯野造船所	一、艦名及解鉄造船所	回航引込決定發動、行動及引込予定地	特内地所在、英國引込艦ハ左ニ依リ解鉄造船所ニ	番號	定指	艦發所	艦送所				
								九	十		東放				
								所 艦 信 受				PA 1650			
								者 信 着				各復			
				者 報 受				里神、蘇峰、 巨濟、掃三、 輸丸							
				分 區 理 整				者 信 發							
								二復 鉄							
整理番號 16								電波 4630		K.C.					

通信文

平文暗號 ()

() 無線 有線

附表第一 (様式第一)

0238

通信者
電信部
暗號部

副司令長
當直將校
關係者

通信參謀
司令部附

司令長官
司令官
參謀長
首席參謀
幕僚

海軍電報起案譯文用紙

月	日	受信時刻	作成時刻	翻譯者	記事	番號	定	指	發所	送所
							信	信	信	信
							所	繼	信	受
							者	信	着	
							者	報	受	
							分	區	理	整
									者	信
										發

通信文 平文 暗號 () 無線 有線

二、乘員 回航又ハ引渡ニ必要ナル最少数限乘員外所在地ニテ
退艦

三、燃料潤滑油帶品 艙裝品 回航ニ必要ナル物ノ外陸揚
シ最少数補給部又ハ造修部ニ還納ス

但シハ、テセル重油ハ極力保管艦ニ移載シ、殘油ハ報告ス
後令了ルマ、艦内ニ保管ス

四、罐用重油ハ、殘量ヲ報告シ、後令了ル迄艦内ニ保管ス

ハ、六分儀時計 眼鏡 晴雨計 定規 六分儀

0239 整理番號 電波 K.C.

附表第一 (様式第一)

暗 電 通
號 信 信
部 部 者

關 當 副 (艦
係 直 長 (司令)長
者 將 校

司 通
令 信
部 參
附 謀

幕 首 參 司 司
僚 席 謀 令 令
參 長 官 長 官

紙用文譯案起報電軍海

月	日	受信時刻	作成時刻	作成者	記事	五、慰安用物件ハ、最寄管船部ニ還納ス 但シ同取及引取ニ必要在物ヲ又之 四、被服糧食ハ最寄補給部ニ還納ス 二、襪ニ送付ス 横管船部ニ送付シ英海軍代表ニ引取之領收書付シ 類ハ付之各保具ハ現地英海軍代表ニ舞橋ハ	番號	定指	艦發所信	艦送所信
							所	艦	信	受
							者	信	着	
							者	報	受	
							分	區	理	整
							者	信	發	
0240							整理番號	電波	K.C.	

附表第一 (機式第一)

吳復第六二五號

昭和二十二年十一月八日

吳地方復員局總務部長

輸補管
一四給船
七號部部
艦長長
殿殿殿

舊輸送艦引渡に就て

輸一四七號は今般因島日立造船所に於て解撤の事に決定したから左の豫定により引渡を行はれる管船部及補給部は物件陸揚及目録作製に關し艦側に協力され度い

十一月十日 ○九〇〇 物件陸揚開始

十一月十一日 一六〇〇 同右終了

十一月十二日 早 朝 吳 發

十一月十二日 午 後 因島日立造船所着物件陸揚

十一月十三日 ○九〇〇 別 渡

(終)

副 申 書

今般別紙の通り在外同胞援護會大竹出張所々長小澤清人代より當復興局使
用中の事務用品其他に對して拂下の申請をされたか該團體は御承知の如く
我國の現状に照して極めて重要にして有意義なる事業を計畫實施して居り
ますか物資不足の折納是非必要なる事務用品其他の入手難の爲折角の事業
も進捗せず誠に氣の毒に堪へませんので當復興局閉廳に伴つて貴廳に採轉
になります右物件の内格別の御配慮を以て拂下の事に御詮議下さる様御願
ひする次第であります

昭和二十二年十一月八日

英地方復興局總務部長

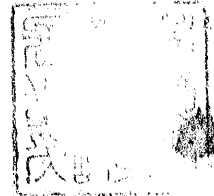
廣島縣總務部長殿

0242

昭和二十三年十一月十日

英地方復興局總務部長

廣島縣總務部長
廣島府國有財産部長
中國海運局船舶部長



備前海特務艇引渡しに就て

備前海特務艇一、二及一六號は今般抽磨製船渠に於て解撤の舉に決定十一月
十四日一〇〇〇英籍船舶に於て引渡しを行ふに付代表官出席され度い

高送付先

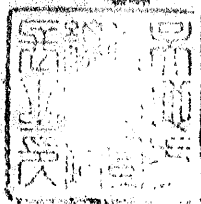
英海運局支所長
英海運局支所長
英海運局支所長
英海運局支所長

(終)

0243

昭和二十二年十一月十日

吳地方復興局總務部長



掃特	吳	吳
一	補	管
六	給	船
	部	部
	長	長
	殿	殿
掃特	掃	掃
一	特	特
六	一	一
	六	六
	號	號
	艇	艇
	長	長
	殿	殿

掃特一及一六の引渡に就て

掃特一及一六は今般掃磨吳船渠に於て解撤の事に決定左の豫定により引渡を行はれる

十一月十二日	〇九〇〇	物件陸揚開始
十三日	一六〇〇	同右終了
十四日	一〇〇〇	引渡(場所 掃特一六艇上)

(終)

暗號部
電信部
通信長

關係者
管直將校
副長
(司令)
艦長

司令部附
通信參謀

幕僚
首席參謀
長
司令官
司令長官

紙用文譯案起報電軍海

11月10日 日送信時刻	作成時刻	作成者	記事	(終)	特 輸一四七、搭載重油、因島、於石油公園、 所、引渡ヤルカ 受取ページ十三日頃、因島着、予是	番號	定指	艦發信所	艦送信所
						所艦信受	2214c10	者信着	輸一四七
通信文						平文暗號 ()			
						無線 有線			
						附表第一 (様式第一)			
						電波			

0245



領 收 書

舊二等輸送艦第一四七號ヲ受領シマシタ

昭和二十二年十一月十三日

廣島財務局長

高橋 衛 殿

立會人

吳地方復員局長

廣島縣知事

中國海運局長

代 河野克次
代 佐々木春一
不破 宏

廣島縣知事 兼 廣島地方復員局長
日立造船株式會社 廣島造船所
取締役 所長 我妻 聰



0246



引渡書

舊輸送艦一四七號を内務省に引渡します
但し大藏省を経て日立因島造船所に引渡しの分

昭和二十二年十一月十三日

吳地方復興局長 矢 牧

廣島縣知事 楠 瀬 常 猪 殿

立會人 廣島財務局長

山田清奇

中國海運局長

不破 宏

日立因島造船所長

内野六三郎



0247

Commander Naval Forces, Far East
Tokyo, Japan

File: ONEL/SG4/rh(80)
Serial: (2625)

6 November 1947

From : Commander Naval Forces, Far East.
To : Ministry of Transportation.
Second Demobilization Bureau.
Via : Central Liaison Office, Tokyo.
Subject : Scrapping of Former Japanese Navy Transport
No.147 Belonging to the United States.
Reference : (a) SCAPIN 1761 Subject: "Destruction of Former
Japanese Naval Vessels".

1. The Former Japanese Navy Transport No.147, will be delivered to the Hitachi Shipyard at Inoshima, for scrapping. The period of scrapping will be from 1 December 1947, and complete on 31 March 1948.
2. In carrying out the scrapping of this vessel the provisions of SCAPIN 1761 will be complied with including a strict accounting as detailed in paragraph 5 there of.
3. Prior to undertaking scrapping certain special designated articles of equipment will be removed and delivered to Commander Naval Forces, Far East.
4. Submit monthly reports of progress including four(4) photographs and negatives to Commander Naval Forces, Far East in the same manner as reports are submitted covering scrapping of Major Combatant Ships.

N.W. BARR
Chief of Staff.

CC: SCAP
G-4(Plans & Policy)
ESS
CG 8th Army (MG) 10
NLO KURE

0248



引渡書

南洋海防艦艇一號及一六號を内務省に引渡します
但し大砲等を附して揚子江造船所製船渠に引渡しの方

昭和二十三年十一月十四日

奥地方議員局長 天牧

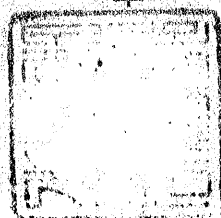
廣島縣知事 楠 常 務 殿

立寄人 廣島財務局長 代 江 間 勝 司

中島海運局長 代 山 崎 博

揚子江造船所製船渠所長 代

大 日 翠 一 雄



0249

警 察 船 隻 要 目

A. H. S.

(Auxiliary Mine Sweepers)

L P P 29.6

B 5.0

D 2.2

tons

DISP 215

ENGINE 1 Diesel

S. H. P 700

0250